

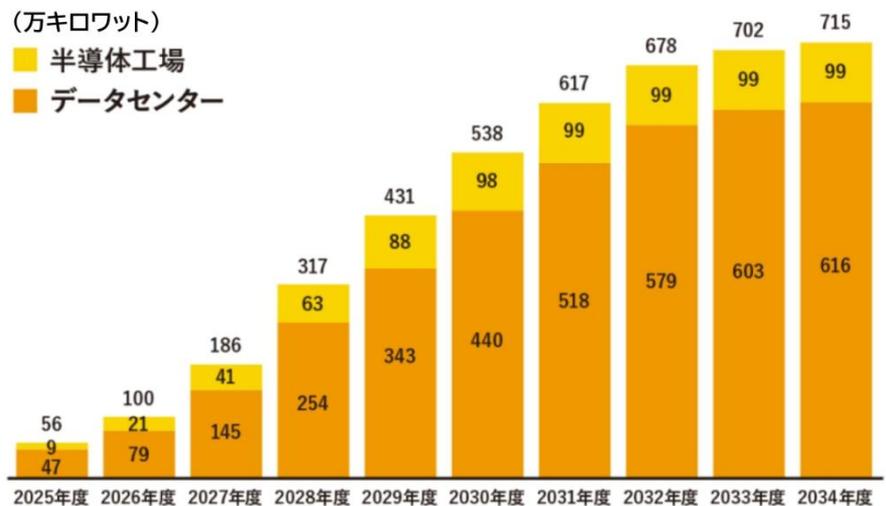
## 今さら聞けない AI(12) ②電力消費の急増

ものづくりや事務作業を効率化し、ちょっとした疑問にもそれなりに回答、日常生活を便利にしてくれるAIですが、メリットが大きければ、弊害も大きく、今回は、AI依存症を採り上げました。今回は、AIの普及に伴う電力消費の急増という問題を採り上げます。

AIによるデータの学習や回答の生成には膨大なエネルギーが必要になります。スマホでちょこちょこネット検索をされると思いますが、生成AIで一つの質問をするとネット検索のなんと10倍もの電力を消費します。AIマシン20万台を並べた最新のデータセン

ターでは、25万キロワット、つまり、原発1基の1/4、一般家庭6万世帯と同じ電力を消費します。

右図に日本のAI関連の電力需要予測を示しますが、10年間で13倍増、データセンターでは既に「電力の爆食い」が始まっている訳です。



(出典:電力広域的運営推進機関HP)

世界的に見ると、データセンターの立地には寒冷な気候や低税率の地域が選ばれています。アイルランドでは、2023年に電力消費の実に21%がデータセンター関連でした。米国でも電力消費に占めるデータセンターの割合は上昇傾向で、2023年の4%が28年には12%になるとの試算もあります。

以上で見てきた通り、社会全体のデジタル・トランスフォーメーション(DX)でAIの利用は拡大する一方です。しかし、調子に乗って電力消費を急増させていると、電力のひっ迫、引いては気候変動への影響が不可避です。グリーン・トランスフォーメーション(GX)とDXの両立は待ったなしの社会課題です。

(竹の台 西元)